

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 2 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 27 年 5 月 21 日 (2015.5.21)

【公表番号】特表 2014-512266 (P2014-512266A)  
 【公表日】平成 26 年 5 月 22 日 (2014.5.22)  
 【年通号数】公開・登録公報 2014-027  
 【出願番号】特願 2014-506465 (P2014-506465)  
 【国際特許分類】

**B 0 1 J 31/22 (2006.01)**

**C 0 7 F 9/572 (2006.01)**

【 F I 】

B 0 1 J 31/22 Z

C 0 7 F 9/572 A

C 0 7 F 9/572 Z

【手続補正書】  
 【提出日】平成 27 年 4 月 2 日 (2015.4.2)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 7 9  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【 0 0 7 9 】

上記で好ましい実施形態を記述することによりある程度詳細に発明を記載したが、この詳細は説明を主な目的とするものである。当業者は、添付の特許請求の範囲に記載されている発明の精神及び範囲を逸脱することなく多くの変更及び修正を加えることができる。

以下に、本願発明に関連する発明の実施形態について列挙する。

#### 〔実施形態 1〕

ヒドロホルミル化触媒溶液の貯蔵のための調製方法であって、前記触媒溶液が、

A . 1 又は複数の有機リン配位子と組み合わせた遷移金属と、

B . ある濃度の酸性化学種と、

C . 水と

を含み、前記方法は、前記触媒溶液中の前記酸性化学種の濃度を 2 0 0 p p m 以下に低減する工程を含むものである、方法。

#### 〔実施形態 2〕

前記酸濃度を、抽出、塩基添加、及び沈殿の 1 又は複数によって低減する、実施形態 1 に記載の方法。

#### 〔実施形態 3〕

前記溶液中の前記水の含有量を 0 . 8 w t % 以下に低減する、実施形態 1 に記載の方法。

#### 〔実施形態 4〕

ヒドロホルミル化触媒溶液の貯蔵のための調製方法であって、前記触媒溶液が、

A . 1 又は複数のビスホスファイト配位子と結合した遷移金属と、

B . ある濃度の酸性化学種と、

C . 水と

を含み、前記方法は、前記触媒溶液を、前記酸性化学種の少なくとも 5 0 パーセントを中和及び / 又は吸収する 1 又は複数の材料を含んでなる水性緩衝溶液と混合する工程を含むものである、方法。

#### 〔実施形態 5〕

前記水性緩衝溶液が、置換されたアミン又はエポキシドの少なくとも１つを含んでなる、実施形態４に記載の方法。

[ 実施形態 6 ]

前記触媒溶液を、前記触媒溶液と接触する別個の層としての前記水性緩衝溶液と貯蔵する、実施形態４に記載の方法。

[ 実施形態 7 ]

前記触媒溶液及び水性緩衝溶液を、混合及び撹拌された状態で貯蔵する、実施形態４に記載の方法。

[ 実施形態 8 ]

前記触媒溶液を、合成ガスのブランケット下で貯蔵する、実施形態１～７のいずれか一項に記載の方法。

[ 実施形態 9 ]

前記触媒溶液を、不活性ガスのブランケット下で貯蔵する、実施形態１～７のいずれか一項に記載の方法。

[ 実施形態 10 ]

前記触媒溶液を、１又は複数の不活性ガスと組み合わせた合成ガスのブランケット下で貯蔵する、実施形態１～７のいずれか一項に記載の方法。

[ 実施形態 11 ]

前記触媒溶液を、ヒドロホルミル化プロセスの設備内で貯蔵する、実施形態１～１０のいずれか一項に記載の方法。

[ 実施形態 12 ]

前記触媒溶液を、ヒドロホルミル化プロセスの設備の外部に貯蔵する、実施形態１～１０のいずれか一項に記載の方法。

[ 実施形態 13 ]

前記ヒドロホルミル化触媒の前記遷移金属がロジウムである、実施形態１～１２のいずれか一項に記載の方法。

[ 実施形態 14 ]

前記酸性化学種が、アルデヒド・ホスホン酸及びリン酸を含む、実施形態１～１３のいずれか一項に記載の方法。

**【 手続補正 2 】**

**【 補正対象書類名 】** 特許請求の範囲

**【 補正対象項目名 】** 全文

**【 補正方法 】** 変更

**【 補正の内容 】**

**【 特許請求の範囲 】**

**【 請求項 1 】**

ヒドロホルミル化触媒溶液の貯蔵のための調製方法であって、前記触媒溶液が、

A．１又は複数の有機リン配位子と組み合わせた遷移金属と、

B．ある濃度の酸性化学種と、

C．水と

を含み、前記方法は、前記触媒溶液中の前記酸性化学種の濃度を 200 ppm 以下に低減する工程を含むものである、方法。

**【 請求項 2 】**

前記酸濃度を、抽出、塩基添加、及び沈殿の１又は複数によって低減する、請求項 1 に記載の方法。

**【 請求項 3 】**

前記溶液中の前記水の含有量を 0.8 wt % 以下に低減する、請求項 1 に記載の方法。

**【 請求項 4 】**

ヒドロホルミル化触媒溶液の貯蔵のための調製方法であって、前記触媒溶液が、

A．１又は複数のビスホスファイト配位子と結合した遷移金属と、

B．ある濃度の酸性化学種と、

C．水と

を含み、前記方法は、前記触媒溶液を、前記酸性化学種の少なくとも５０パーセントを中和及び／又は吸収する１又は複数の材料を含んでなる水性緩衝溶液と混合する工程を含むものである、方法。

【請求項５】

前記水性緩衝溶液が、置換されたアミン又はエポキシドの少なくとも１つを含んでなる、請求項４に記載の方法。